

無 題

菱 山 博 文 *

No. S 50102

証 書

菱 山 博 文 殿

あなたは当国税局主催の清酒ビール及びウイスキーのきき酒会において全問正解されたのでこれを証します。

昭和50年11月7日

福 岡 国 税 局
鑑 定 官 室 長 印

11月7日、かねてはおカタい方々がたむろしている場所である国税局の大会議室は、検番のお姐さん、バーのマダムを交えて、財界や業界新聞関係、料亭の主人など種々さまざまな人であふれていた（毎年1回、秋ぐちに、国税局主催で「お酒を大いに飲みましょう、税は大いにおとしましょう」という趣旨か、きき酒の会が行われている事をご存知でしょうか）。ことしも医師会代表というわけでこの会に出席させられた私も、その中にいた。

かねてはコワイ国税局長もこの日だけは下手揉手で愛想をふりまいて廻っている。検番のお姐さん方はカンニングもいいところ、「あんた、こりゃ何と思う？」「サントリーな ニッカな？」「キリンなもちょっと苦かバイな」とまあ賑やかな事である。

小生、去年はビールをたった1種しか当てきらず、「センセはムダに酒を飲んどらっしゃる」などとひやかされた事を思い出しながら神妙な顔で味見をして廻った。サッサと終って、トップに「答案」を提出して待っていると、次の会合のメ

ンバーが待っているから早く来て下さいという電話。どうせきき酒なんて当たる筈が無い、かたわらにいた某バーのホステス、かすみちゃんに、

「どうせ当たったりせんだろう。次の会議に行くから当たったったら賞品はあんたにやるバイ」と乾杯もそこそこに会場を出た。

次の日は、朝1番で上京。新聞などろくろく読む暇もなく最終便で帰ってみると高2の娘が「お父さま、またよからぬ所に行ってたんじゃないのきき酒など、いつ行ってして来たの？」と言う。

「ウン、おとといだヨ」「じゃあ賞品は？」キツネにつままれたような気持でいると「ちゃんと優勝したと載ってますよ」と新聞を差し出す。

170人中全問（9品目）正解は城南病院菱山院長と「あざみ」の某女史と出ているではないか！

（あ、しまった、それじゃ居りゃ良かった！）と内心残念さを感じながら平気な顔をしているそのツラさ！ お察し下さい。

二夜明けると月曜日。答案用紙を預けて帰った女史より電話がかかる。「センセ、みんな当たりましたとよ。今から証明書を持って行きます」と「ウン、待ってるよ」という事で彼女、病院にご到来。「これが証明書、そしてこれが賞品」と新種の入ったコーラびんぐらいのお酒を差し出す。

「まだあったけど、あとはみーんな飲んじました！」と泰然自若としております。

「うちゃ、恥ずかしかったとヨ。城南病院の菱山先生と何度も呼ばれるので、仕様がないうじなかなですか、とうとう預かった答案を持って出て行ったら『菱山夫人でいらっしゃいますか、ご感想は？』とマイクをつきつけられるし、みんな笑うし……」「ほう、そんならもちょっと美人に預けときゃ良かったナ」

「まあ失礼な！ あたしゃ美人でっしょうが。これはハズカシ賃！」と、封筒を差し出す。

（ホウ、金一封か……）と考えながら開けてびっ

* 福岡県医師会常任理事，医学博士，本協会理事

くり、クリスマス・パーティー券が5枚入っているではありませんか。

彼女嫣然として「払いは後で結構です。ではバイバイ……」と帰って行ってしまった。

ロータリーに行くと「大当たりニコニコ箱」ということで計5万1千円の大損。大当たりのあとの大損、差し引き勘定どうも損の方が大きかったような感じは、まだ悟道の極致に入っていないせ

いか。

後日、うやうやしく最初の「証明書」をかざしながら福大樋口病院長に愚痴をこぼしたところ、院長平然として曰く「お前が持つてるライセンスの中では、これが1番立派だよ」と。

みなさんこれはナグサメでしょうかヒヤカシでしょうか？ 私の気持をお察し下さい。



トピック

気象変化と稲作

昭和50年12月20日の各新聞は、今年度も米の収穫量は史上は4番目の豊作となったと報じている。一部の風水害のあった県を除き、各県とも平年作柄指数を大幅に上まわった。これで日本の米の100%自給の体制はさらに安定したと思われる。しかし一方では1972~1973年にかけて世界的な異常気象が続発し、作物の不作、凶作が各地で引き続き起っている。今年もソ連のアメリカからの大量の小麦の買い付けが新聞紙上を賑わしている。金で買い付けの出来ない国々の人口増加による、食糧の慢性的不足はは全世界の問題としてクローズアップされて久しい。

稲作技術の歴史は冷害克服のための技術の歴史であると云われている。寒冷気候への移行期にある現在、わが国も予想もつかない寒い夏が来ないとも限らない。一方昭和45~50までの予定で始め

られた米の生産調整(3年間延長が決定している)は農民の生産意欲に水をさし、うまい米作りの傾倒は、稲作技術の粗放化とあいまって、危険な状態にあると、専門家は米の100%自給不安について述べている。

農林省東北農業試験場長坪井八十二博士、農林省農業技術研究所物理統計部内嶋善兵衛博士の意見を紹介しよう。

1. 気候の変化

気候変化の実態はどうなっているのだろうか？

ある場所の平均的な気象状態「気候」の変化は何万年という期間をとらなくても、温度計などで気象を観測するようになった100年~200年をみても明瞭に観察することが出来る。北緯65°に浮かぶ氷と火山の島アイスランドは北半球の気候の